

< 目 次 >

第1章 枚方市バリアフリー基本構想の背景と趣旨	
1.基本構想の背景と趣旨	1
2.基本構想の位置づけ	2
3.統計からみる枚方市の概要	3
第2章 基本理念と基本的な方針	
1.基本理念	7
2.基本的な方針	7
第3章 重点整備地区の設定	
1.重点整備地区の設定の考え方	8
2.重点整備地区の選定	9
第4章 生活関連施設および生活関連経路の選定と重点整備地区の区域	
1.生活関連施設選定の考え方	12
2.生活関連経路選定の考え方	13
第5章 整備の基本方針・整備項目	
1.整備の基本方針・整備項目について	18
2.整備の基本方針	19
3.整備項目	31
第6章 包括的なバリアフリーの実現に向けて	
1.基本構想の推進体制	54
2.心のバリアフリーの推進	55
3.バリアフリーのさらなる拡充と展開に向けて	56
参考資料	
参考 - 1. 枚方市交通バリアフリー基本構想策定後における取り組みの経過	1
参考 - 2. 現地点検調査及び意見交換会、現地調査報告会による市民参加	4
参考 - 3. 枚方市バリアフリー基本構想策定の経緯	6
参考 - 4. 枚方市バリアフリー基本構想策定の体制	7
参考 - 5. 枚方市バリアフリー基本構想策定委員会名簿	8
参考 - 6. 枚方市バリアフリー検討部会名簿	9

第1章 枚方市バリアフリー基本構想の背景と趣旨

1. 基本構想の背景と趣旨

魅力にあふれ生き生きとした地域社会を実現するためには、高齢者や障害者はもちろん、すべての人が安心して生活し積極的に社会参加できる、人にやさしいまちづくりを進めていかなければなりません。

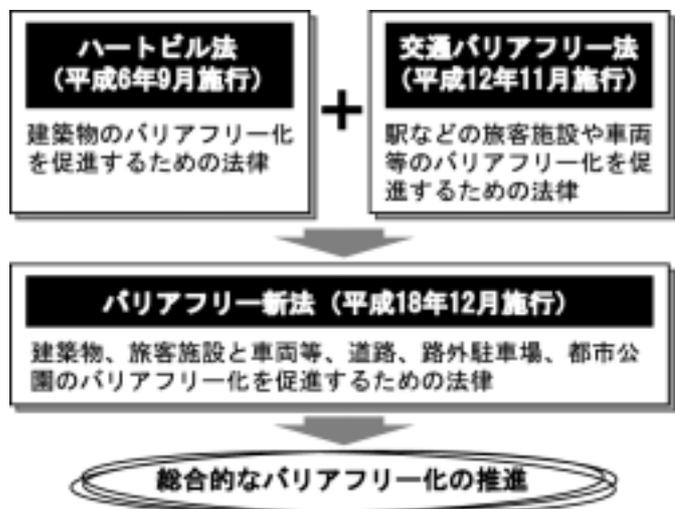
本市では、平成8年度に「枚方市障害者基本計画」を策定し、ノーマライゼーションの理念を実現するために、障害者施策を積極的に推進してきています。平成15年度には、ノーマライゼーションの理念を継承し発展させることを目指し、「枚方市障害者計画」を策定するとともに、高齢者福祉においても、平成12年度に策定した「ひらかた高齢者保健福祉計画21」に基づいた高齢者施策の充実・推進を図っているところです。

一方、バリアフリーに関しては、平成5年に、大阪府福祉のまちづくり条例が施行され、不特定かつ多数の人が利用する建築物、道路、公園、駐車場等の都市施設において福祉のまちづくり整備が進められてきました。その後、平成6年に「高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律」(通称：ハートビル法)が施行され、建築物のバリアフリー化が進められてきました。また、平成12年には、「高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律」(通称：交通バリアフリー法)が施行され、旅客施設や駅前広場、周辺道路、車両などのバリアフリー化が進められることとなりました。

本市でも、これらの法律や条例に基づいたバリアフリー化を進めており、平成17年度には枚方市交通バリアフリー基本構想を策定し、「樟葉駅および周辺地区」、「枚方市駅・枚方公園駅および周辺地区」、「長尾駅・藤阪駅および周辺地区」の5駅3地区を重点整備地区としてバリアフリー化を図っています。

さらに、国においては、ユニバーサルデザインの実現に向けて交通バリアフリー法とハートビル法の一体化が必要であると判断され、平成18年12月には、鉄道駅や建築物、都市公園、路外駐車場などの施設も対象とした「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」(通称：バリアフリー新法)が施行されました。

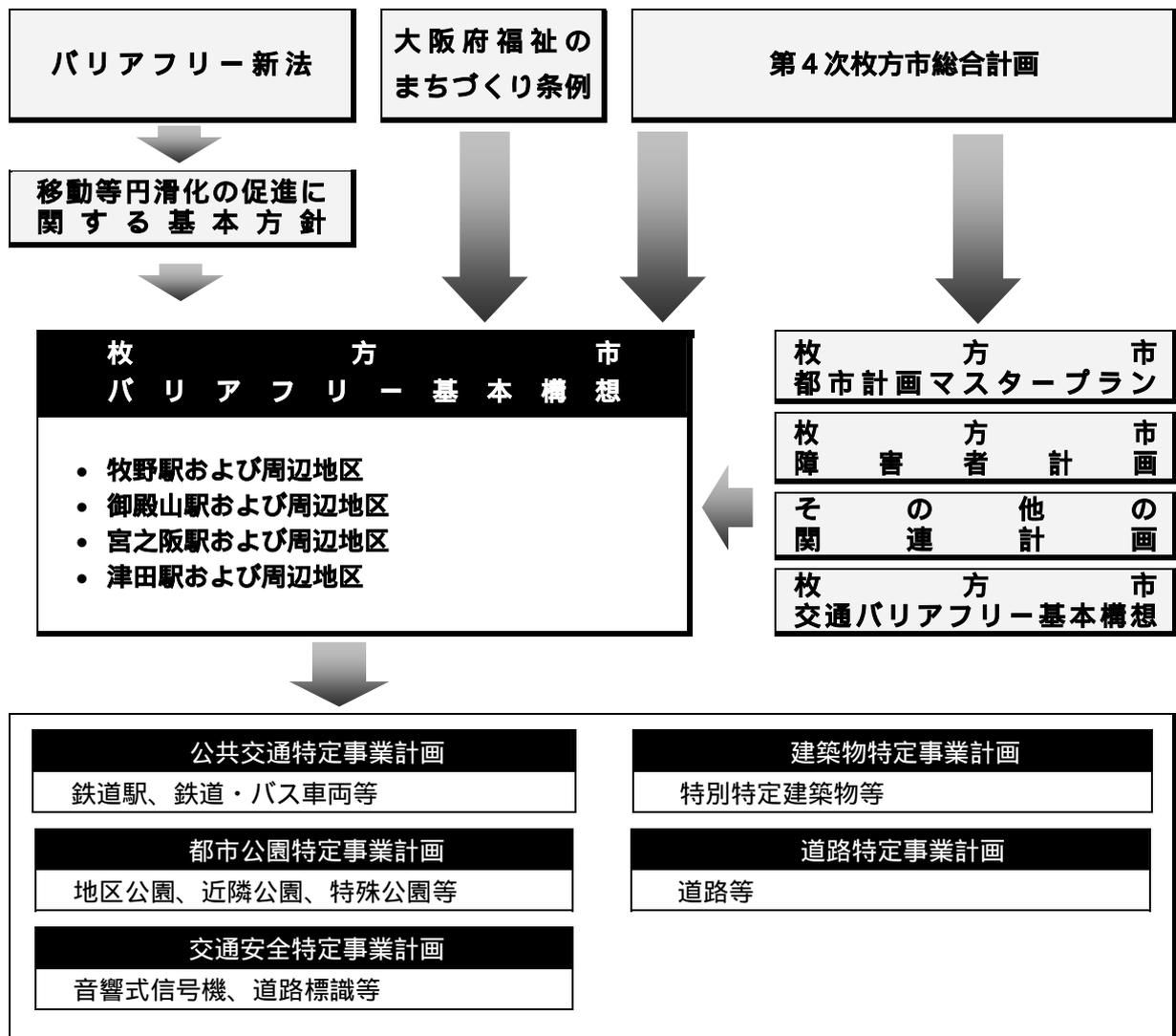
このような中、本市では一体的・総合的なバリアフリー化をさらに進めるため、枚方市交通バリアフリー基本構想で定めた以外の駅および周辺地区について、バリアフリー新法に基づいた枚方市バリアフリー基本構想を策定します。



2. 基本構想の位置づけ

枚方市バリアフリー基本構想（以下「基本構想」という）は、バリアフリー新法及び国が定めた「移動等円滑化の促進に関する基本方針」に基づき、「牧野駅および周辺地区」、「御殿山駅および周辺地区」、「宮之阪駅および周辺地区」、「津田駅および周辺地区」の4駅4地区を「重点整備地区」として選定し、バリアフリー化を重点的・一体的に進めるため策定するものです。

また、基本構想策定に際しては、市の上位計画である「第4次枚方市総合計画」、「枚方市都市計画マスタープラン」、または関連計画である「枚方市障害者計画」等との整合を図るとともに、枚方市交通バリアフリー基本構想（平成17年策定）で定めた基本理念や基本方針に則ることとします。

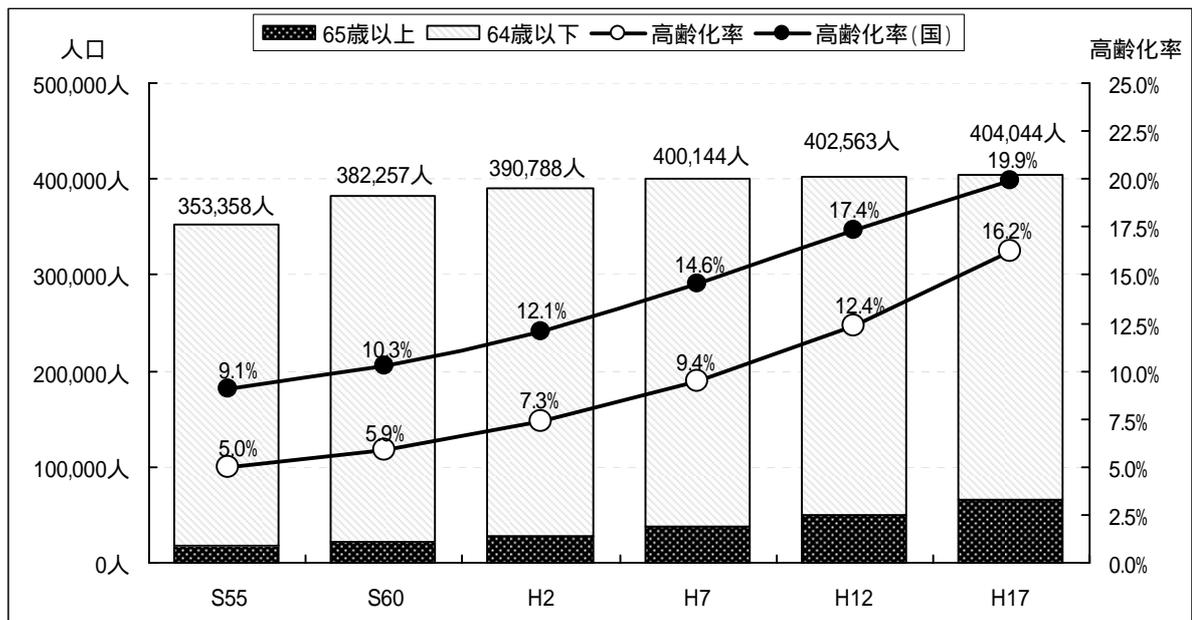


3. 統計からみる枚方市の概要

(1) 人口と高齢者数の推移

本市の人口は、平成7年に40万人を超えてからほぼ横ばいに推移しており、平成17年で404,044人となっています。高齢者人口は昭和55年以降増加し続けており、65歳以上人口が総人口に占める割合を示す高齢化率は、昭和55年の5.0%から平成17年には16.2%と急激に上昇しています。

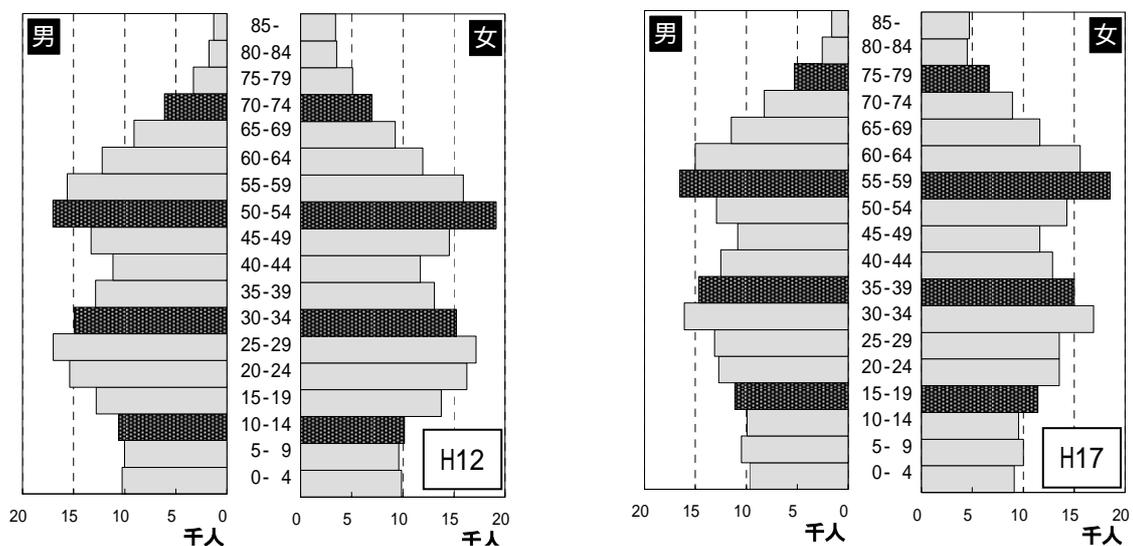
【 人口と世帯数の推移 】



出典：国勢調査

(2) 年代別人口の推移

平成12年と平成17年の年代別人口を比較すると、概ねの人口構成は変化していないものの、65歳以上の各世代の増加と0-4歳の減少が見られます。



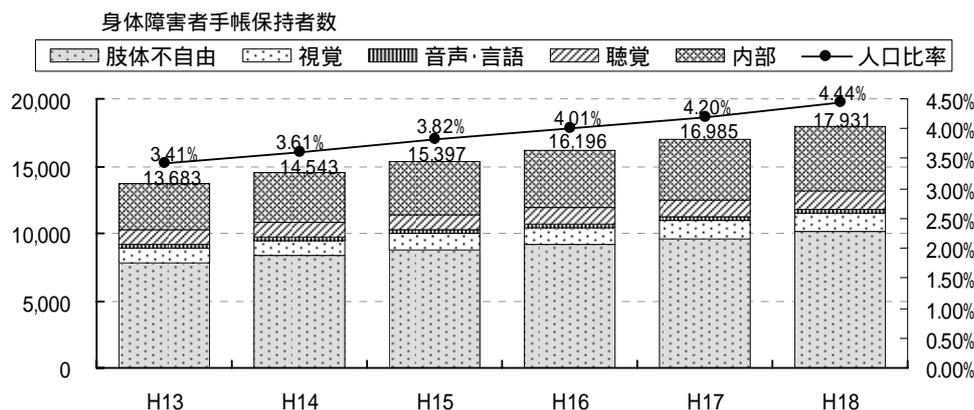
出典：国勢調査

(3) 障害者(児)数の推移

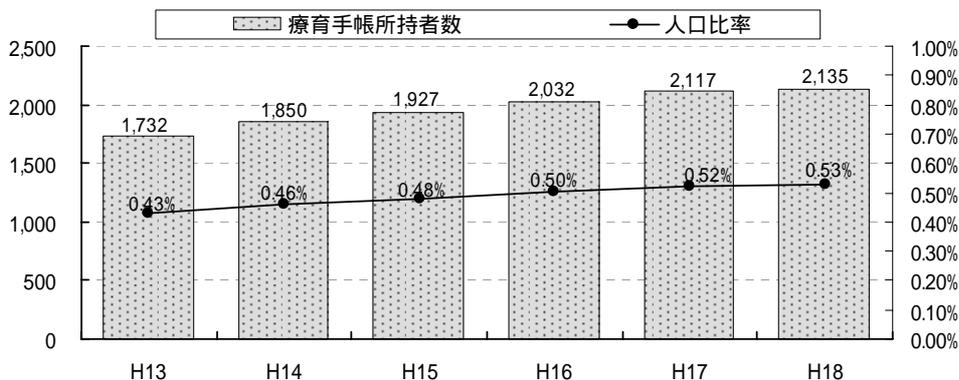
身体障害者(児)は、人数及び人口に占める比率とも増加し続けており、平成18年に17,931人(人口比率：4.44%)となっています。また、障害の種別ごとの増加傾向をみると、肢体不自由及び内部障害者の増加数が多くなっています。

知的障害者(児)及び精神障害者(児)についても増加し続けており、平成18年で知的障害者(児)2,135人(人口比率：0.53%)、精神障害者(児)1,294人(人口比率：0.32%)となっています。

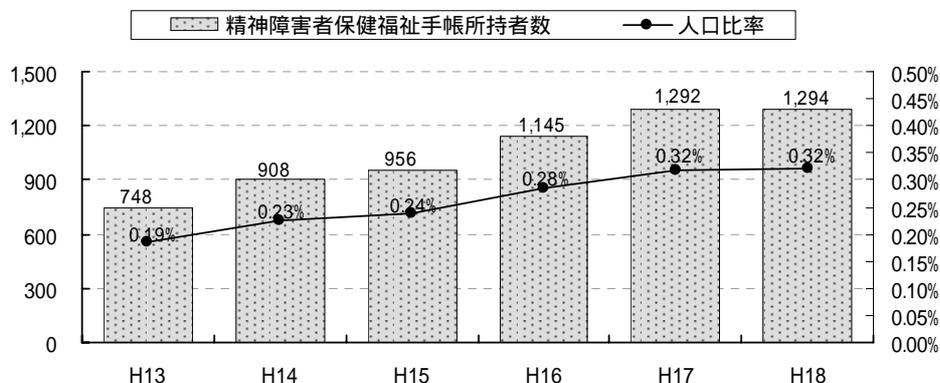
【 身体障害者(児)数の推移 】



【 知的障害者(児)の推移 】



【 精神障害者(児)の推移 】



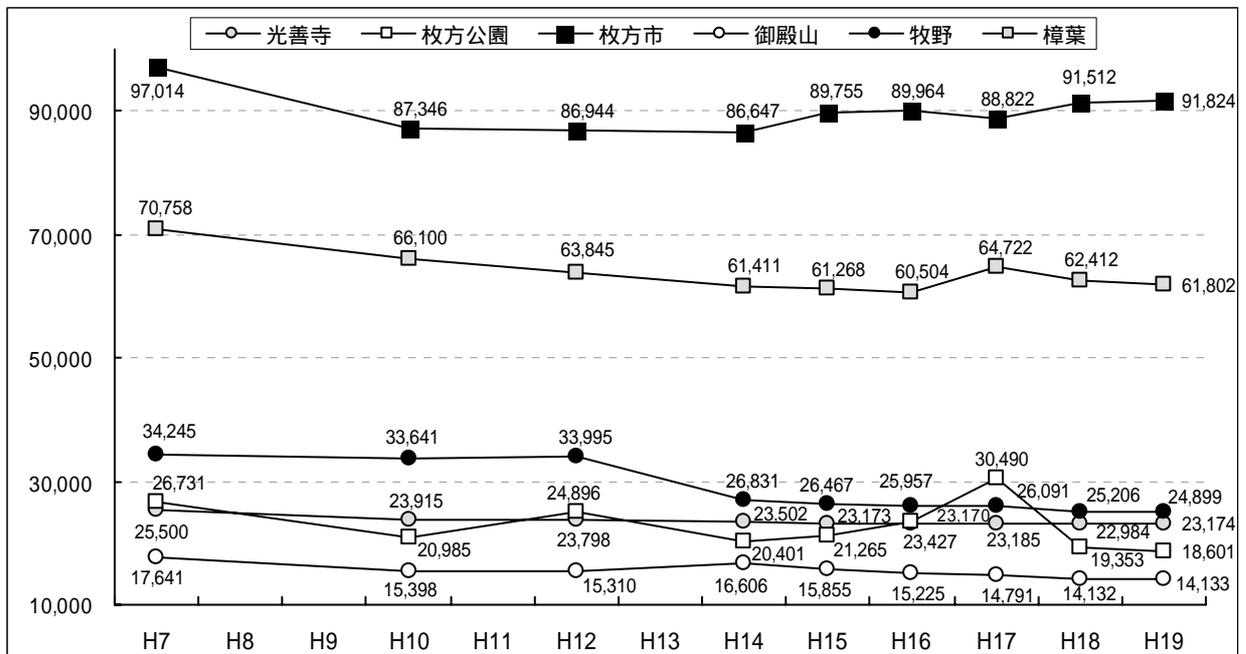
(4) 公共交通機関の状況

本市では、京阪本線、京阪交野線及びJR学研都市線が通っており、市内には12駅が立地しています。京阪本線では光善寺駅、枚方公園駅、枚方市駅、御殿山駅、牧野駅、樟葉駅の6駅が立地しており、京阪交野線では、宮之阪駅、星ヶ丘駅、村野駅の3駅、JR学研都市線では、津田駅、藤阪駅、長尾駅の3駅が立地しています。

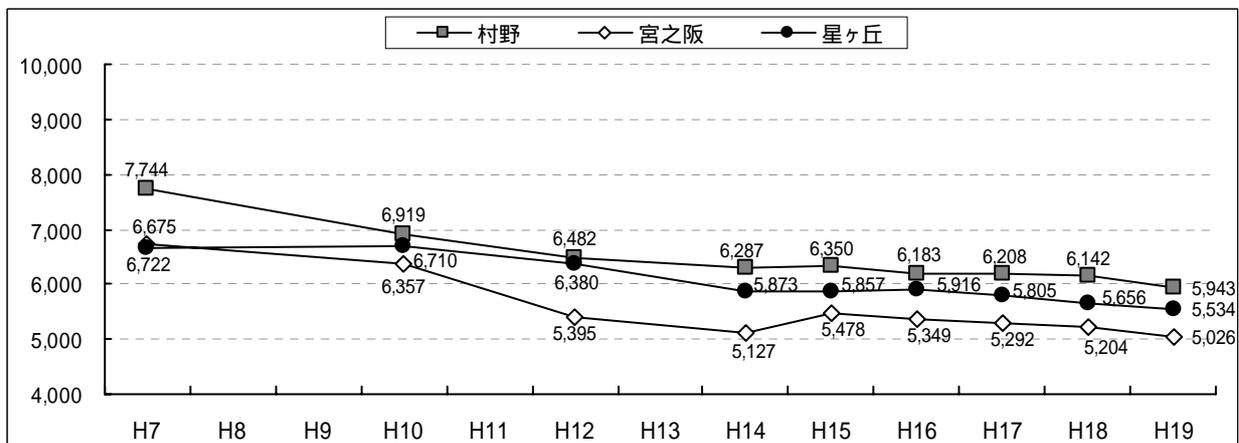
近年、京阪本線、京阪交野線の乗降客数においては、概ね減少傾向にありますが、枚方市駅では、平成14年から増加に転じています。一方、JR学研都市線では、長尾駅で増加し続けていきましたが、平成15年から横ばいとなっており、津田駅、藤阪駅で微増となっています。

なお、市内の鉄道駅はすべて1日平均利用者数が5,000人以上の駅であるため、特定旅客施設として位置づけられます。

【京阪本線乗降客数の推移】

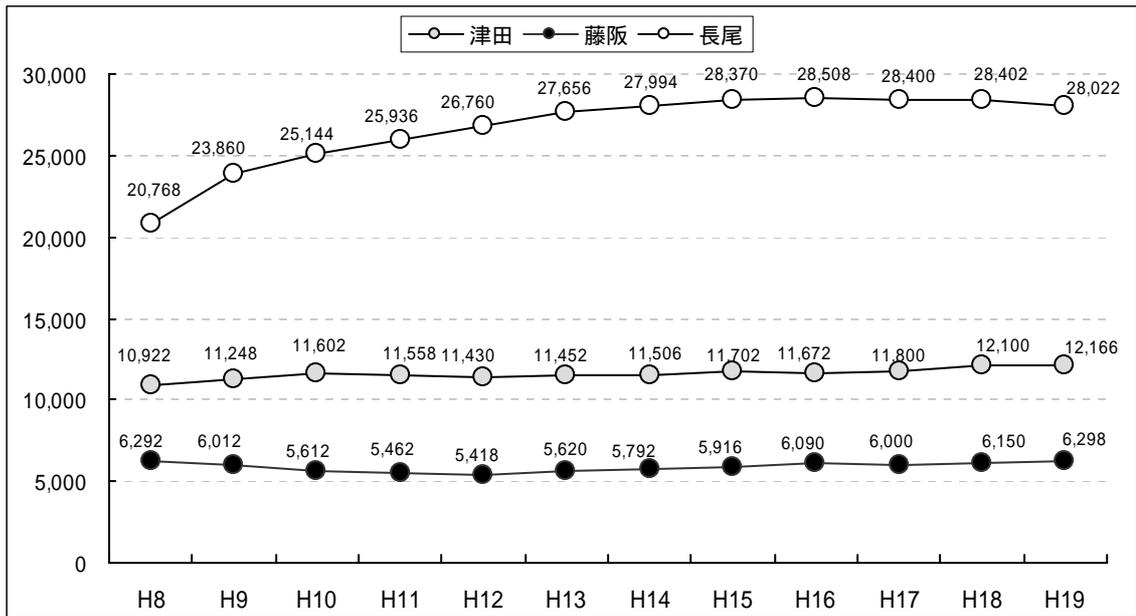


【京阪交野線乗降客数の推移】



出典：枚方市統計書
H8、9、11、13は未調査

【JR学研都市線乗降客数の推移】



出典：枚方市統計書